

経済界の考える 都市デザイン

高岡商工会議所

〒933-8567 富山県高岡市丸の内1-40 TEL: 0766-23-5000 FAX: 0766-22-6792
E-mail: takaoka@ccis-toyama.or.jp <https://www.ccis-toyama.or.jp/takaoka/>



 高岡商工会議所

令和7年11月

高岡商工会議所は、1896年(明治29年)2月19日に全国で46番目の商工会議所として設立され、幾多の時代の変遷に対応しながら現在約3,100会員の商工業者の皆さまとともに、2026年2月には創立130周年を迎えます。

世界は、グローバル化による協調の時代から、各地での紛争、保護貿易主義的な動きが続き、ITからAIへの革命的な技術革新と各産業への波及、また中国を軸とした新しいパワーバランスへと大きな変化のうねりのなかにあります。一方で、世界共通の差し迫った課題である気候変動等、環境問題への対応も待ったなしです。

我が国経済は、1990年代半ばをピークに生産年齢人口の減少とともに失われた30年という長期低迷を経験してきました。更に少子高齢化・人口減少が進む中で、将来の発展を求めて新しい成長分野を模索する状況が続いています。高岡においても、人口減少や若者・女性の県外流出が進み多くの事業所が人出不足に直面している中、地域経済を長らく支えてきたアルミ産業等製造業のビジネスモデル変革が求められるとともに、新たな成長エンジンの登場が期待されています。

高岡は、400年の歴史を刻む高岡銅器・漆器の伝統産業からアルミ・化学・金属・パルプ・機械等の技術が集積した「ものづくりのまち」としての顔と、瑞龍寺・勝興寺の二つの国宝、山町筋・金屋町・吉久の三つの重要伝統的建造物群保存地区とユネスコ無形文化遺産「高岡御車山祭」、日本100名城「高岡城跡」、高岡大仏等の日本遺産や大伴家持由来の万葉文化等、歴史文化都市としての顔があります。加えて、高岡開町の祖前田利長公が地政学上の要として選んだ高岡の地の利、今も北陸新幹線・港湾・あいの風とやま鉄道・JR城端線氷見線・高速道路網等が集まる交通の要衝という強みを活かし、観光産業の育成を図ることが将来の発展に不可欠と思われます。

高岡商工会議所では、2018年に高岡の戦略や基本方針をまとめ地域の10年先を見据えた「地域振興プラン」(2021年改訂)を策定し、当商工会議所の基本行動計画としました。更に、5常任委員会で課題を「10のテーマ」に絞り勉強会や議論を重ね、「地域振興プラン」の方向性を一歩前へ進め具体的な「高岡の都市ビジョン」を示すため、「経済界の考える都市デザイン」を策定しました。「高岡駅周辺(歴史文化エリア)」と「新高岡駅周辺(交流人口拡大エリア)」を都市の核と改めて位置づけ、その役割の追求と二つの核をつなぐアクセスの施策を提案しています。

本デザインは地元商工業者や地域経済の発展という視点からのデザインです。是非この提案をベースとして、経済界と行政、地域社会がともに高岡市の発展という共通目標に向かい力を合わせ、高岡が発展の道を力強く進むことを祈念しております。

目次

経済界の考える都市デザイン構想	3
高岡の現況	5
「経済界の考える都市デザイン」策定の背景・効果	7
10テーマから導かれる方策	
中心市街地「歴史文化エリア」	9
新高岡駅周辺「交流人口拡大エリア」	15
2つのエリアをつなぐ交通	17
県西部との連携	19
14の方策スケジュール	
都市デザインセミナーインデックス	22
2018年「地域振興プラン」	23
2025年「経済界の考える都市デザイン」	24
高岡市の近未来図	25

万葉集 卷十七 四〇〇一
大伴家持

立^{たち}山^{やま}に

降^ふり置^おける雪^{ゆき}を

常^{とこ}夏^{なつ}に

見^みれども飽^あかず

神^{かむ}からならし

2つのエリアが活性化し、
相乗効果を生み出す高岡

歴史と文化を継承する「中心市街地」と、飛越能の玄関口である「新高岡駅周辺」の2つのエリアがそれぞれの特性をふまえた活性化を図るとともに、連携による相乗効果(シナジー)を生み出し、高岡のさらなる発展を目指します。

中心市街地 歴史文化エリア

- 考え方

 - 高岡の歴史と文化を継承する重要なエリア
 - 交流人口を拡大させ当エリアへ誘導する仕組みを構築
 - 高岡駅周辺でのオフィス人口増加と南北交流を図る
- 活性化方策

 1. 高岡駅周辺＝ダイエー跡地等に市庁舎機能移転・オフィス立地を促進
 2. 高岡古城公園（高岡城跡）の観光価値向上、市民公園との両立
 3. 文化の森エリアの形成（市立博物館の移転、ふるさと顕彰館）
 4. 空き店舗・空き家対策の推進（起業・創業、空き家のホテル活用）
 5. 赤レンガ建物利活用（ホテル＋レストラン）

新高岡駅周辺 交流人口拡大エリア

- 考え方

 - 飛越能の玄関口として観光交流の拠点機能を強化
 - 高岡テクノドームを活かし広域コンベンション機能を強化
 - 高岡スポーツコア、イオンモール高岡等、市を越えた広域から人が集まるエリア
- 活性化方策

 6. 高岡テクノドーム別館の完成、県外・海外からのコンベンション誘致
 7. 広域観光拠点としての機能強化（交通、宿泊、滞在、物販、飲食）
 8. 大型商業施設、スポーツ交流拠点として市・県内外から人が集まる場

2つのエリアをつなぐ交通

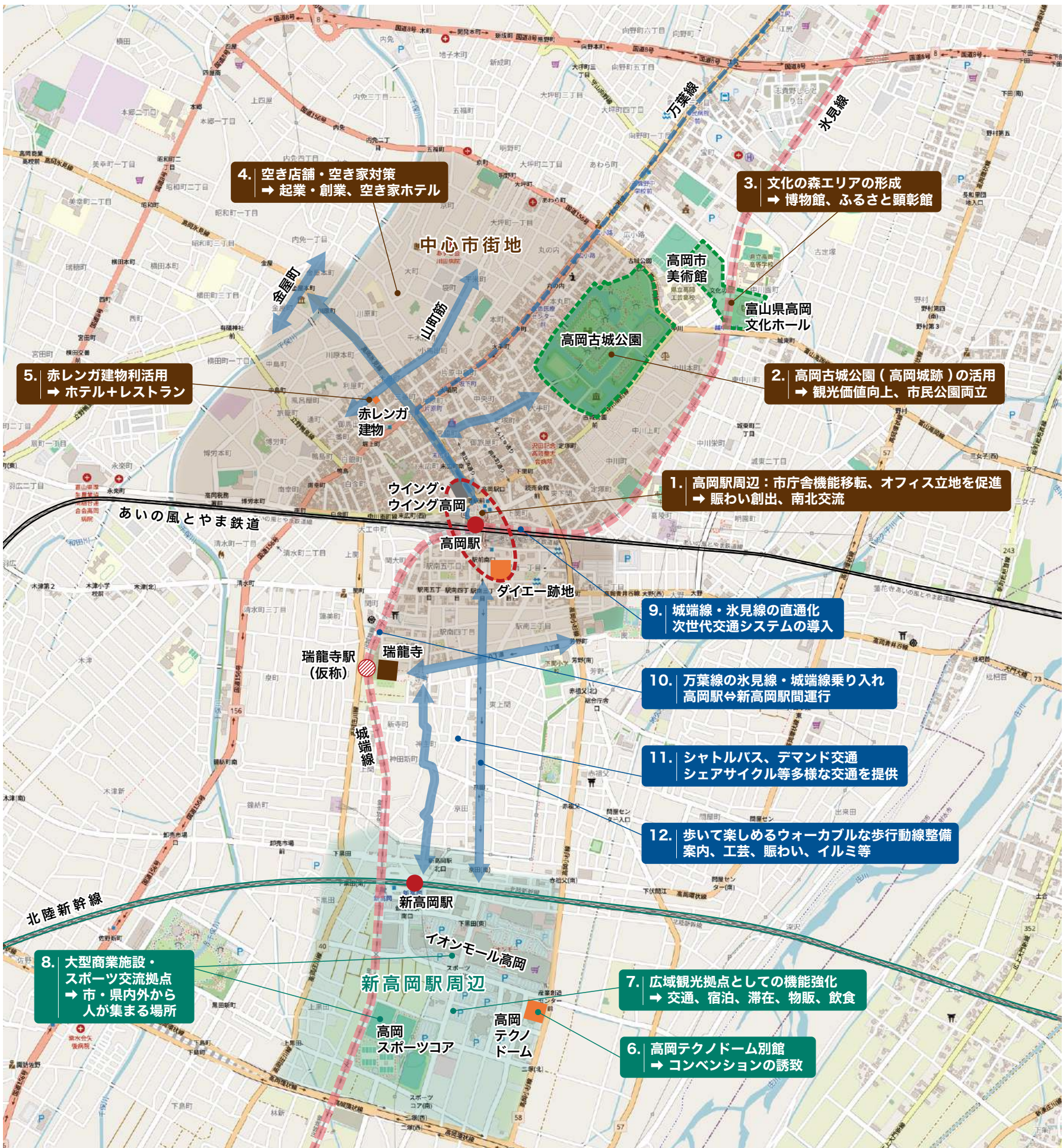
- 活性化方策

 9. 城端線・氷見線の直通化、次世代交通システムの導入
 10. 万葉線の氷見線・城端線乗入れ、高岡駅⇄新高岡駅間の万葉線運行
 11. シャトルバス、デマンド交通、シェアサイクル等の導入
 12. 歩いて楽しめるウォカブルな歩行動線整備
案内、工芸、賑わい、イルミ等

県西部との連携

- 活性化方策

 13. 広域観光の推進（インバウンドをターゲットとする長期滞在拠点）
 14. 脱炭素経営の推進



■ 高岡の現況

1. 高岡市の概況

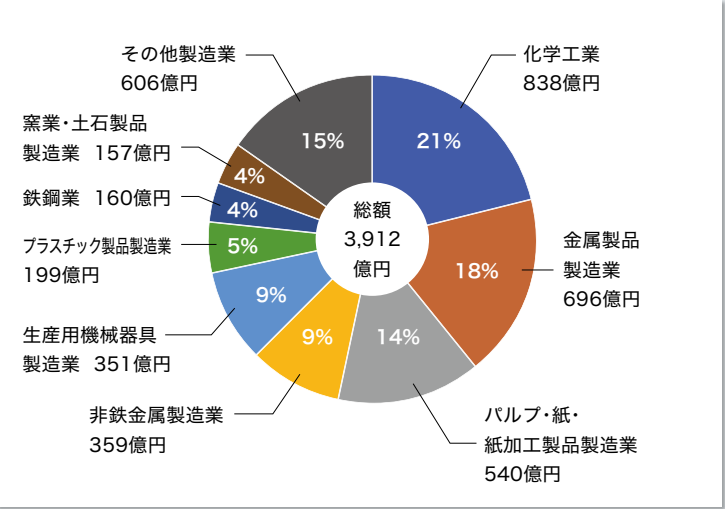
市域は
東西約 24.5km、南北約 19.2km
面積は 209.59km²
富山県面積の約 5% を占める
人口約 16 万 2 千人の
富山県随一の歴史文化都市



※【重伝建】：重要伝統的建造物群保存地区

2. 産業の構造

【製造品出荷額：令和2年】



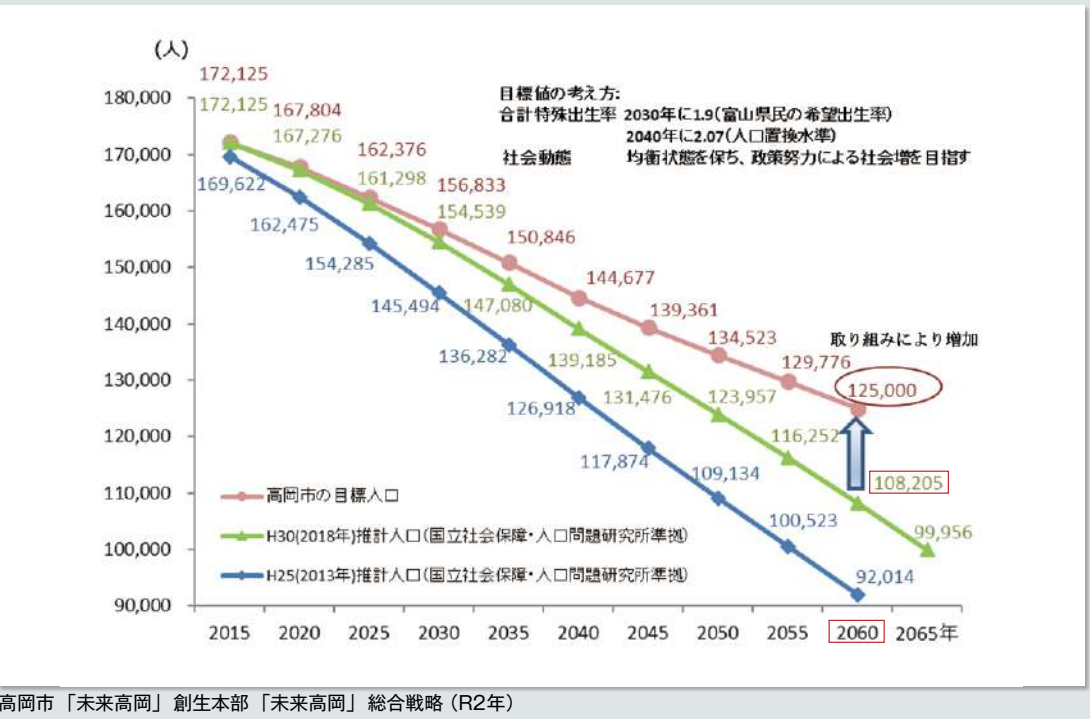
【事業所数及び従業員数：令和3年】

業種	事業所数	従業員数
製造業	1,025	18,452
卸売業、小売業	2,337	17,982
全業種	8,698	82,036

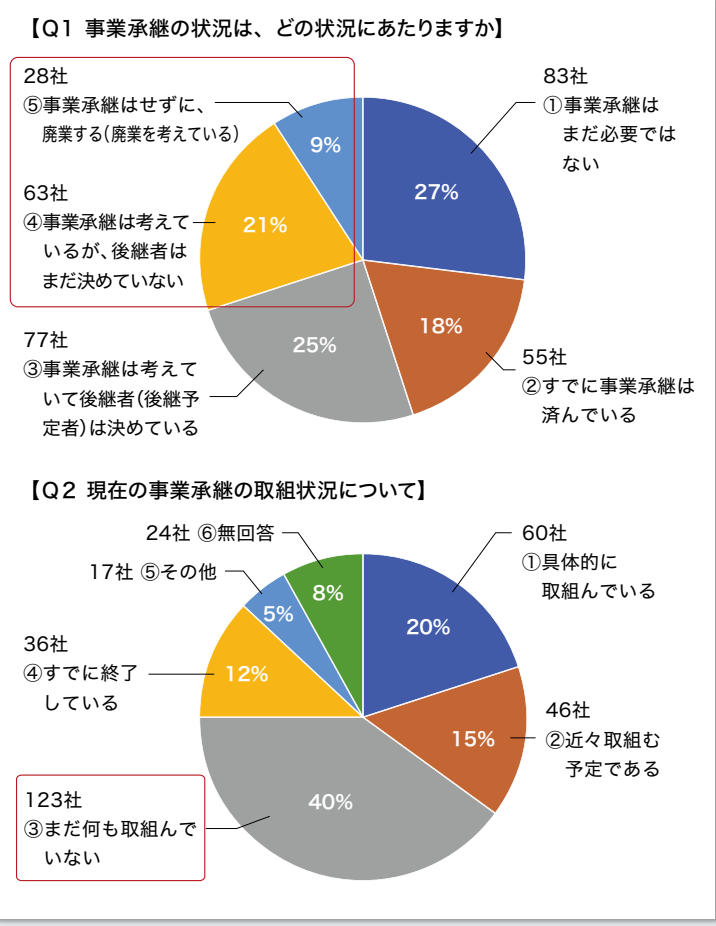
(単位：事業所、人)
総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」

3. 地域経済の課題

【人口の課題】



【事業承継の状況】



当所会員アンケート調査：R6.8 実施、回答数 306 社より

【会員事業所が直面している経営課題】

建設業	①材料価格の上昇	22.0%
	②従業員の確保難	20.0%
	③人件費の増加	12.0%
製造業	①人件費の増加	17.7%
	②原材料価格の上昇	17.1%
	③従業員の確保難	11.4%
卸売業	①需要の停滞	16.9%
	②人件費の増加	15.4%
	③人件費以外の経費の増加	15.4%
小売業	①需要の停滞	17.5%
	②消費者ニーズの変化への対応	15.0%
	③販売単価の低下・上昇難	15.0%
サービス業	①利用者ニーズの変化への対応	17.3%
	①材料等仕入単価の上昇	17.3%
	③人件費の増加	15.4%

当所会員景況調査：R7.6 実施、回答数 140 社より

■「経済界の考える都市デザイン」策定の背景・効果

1. 策定の背景

(1) 産業の現状と脱炭素社会

高岡の産業は、アルミ産業等の製造業が中心でしたが、近年、国内需要の低迷や海外原材料の高騰等により、製造品出荷額等（平成17年（2005年）：5,686億円 → 平成27年（2015年）：4,526億円 → 令和2年（2020年）：3,912億円、高岡市統計書の時系列データより）は減少傾向にあります。

こうした状況の中で新たな展開として、アルミ産業においては、富山大学先進アルミニウム国際研究センターとの共同研究のアルミリサイクル等、脱炭素社会への貢献に注力していますし、高岡市は脱炭素先行地域として取り組みを進めています。高岡市には、高度な金属加工技術を持つ企業が集積しており、この技術が脱炭素に向かうことで、革新的な製品やひいては地域経済の活性化につながることが期待されます。

(2) 観光産業の育成

一方で、産業の構造変化は高岡にも新たな経済の第2エンジンを求めています。高岡の最大の強みは交流拠点としての位置にあります。強みを活かし交流人口拡大に意欲的に取り組み、その経済効果を最大限享受できる観光産業が新たなエンジンとなることが期待されています。また歴史文化資源の宝庫である高岡のまちづくりそのものが、観光産業の育成につながっていくとも考えられます。今後は、製造業に加えて交流人口の拡大による観光産業をもう一つの柱とし、特に県西部地域が連携して戦略的な取り組みを進めていくことが重要であります。主力エンジンの付加価値化と第2エンジンの育成が高岡の新たな未来を切り拓くものと思われます。

(3) 「10のテーマ」

高岡商工会議所では、平成30年（2018年）に高岡市発展に向け「地域振興プラン」（10年計画）を策定し、令和3年度（2021年度）には中間レビューを経て改訂版を作成しました。その後、令和4年度（2022年度）からより議論のテーマを絞り「10のテーマ」を設定し、5つの常任委員会で検討を重ねてきました。

常任委員会名	各委員会の担当テーマ
企業経営改革	① 古城公園の活用、桜の植替え、樹木の伐採 ② 高岡テクノドーム別館の早期完成と誘致活動 ⑪ 脱炭素経営がもたらす企業変革（①終了につき追加）
地域産業活性化	③ 赤レンガ建物利活用 ④ 中心市街地と新駅を核とする都市の魅力向上の推進
まちづくり	⑤ 城端線・氷見線 次世代交通システム・直通化及び万葉線との一体化の調査・研究 ⑥ 空き店舗・空き家対策とまちづくり
観光交流	⑦ 広域観光の推進 ⑧ 藤子・F・不二雄の故郷高岡のまちづくり
総務・組織運営	⑨ 市庁舎移転問題 ⑩ 博物館、体育館移転問題

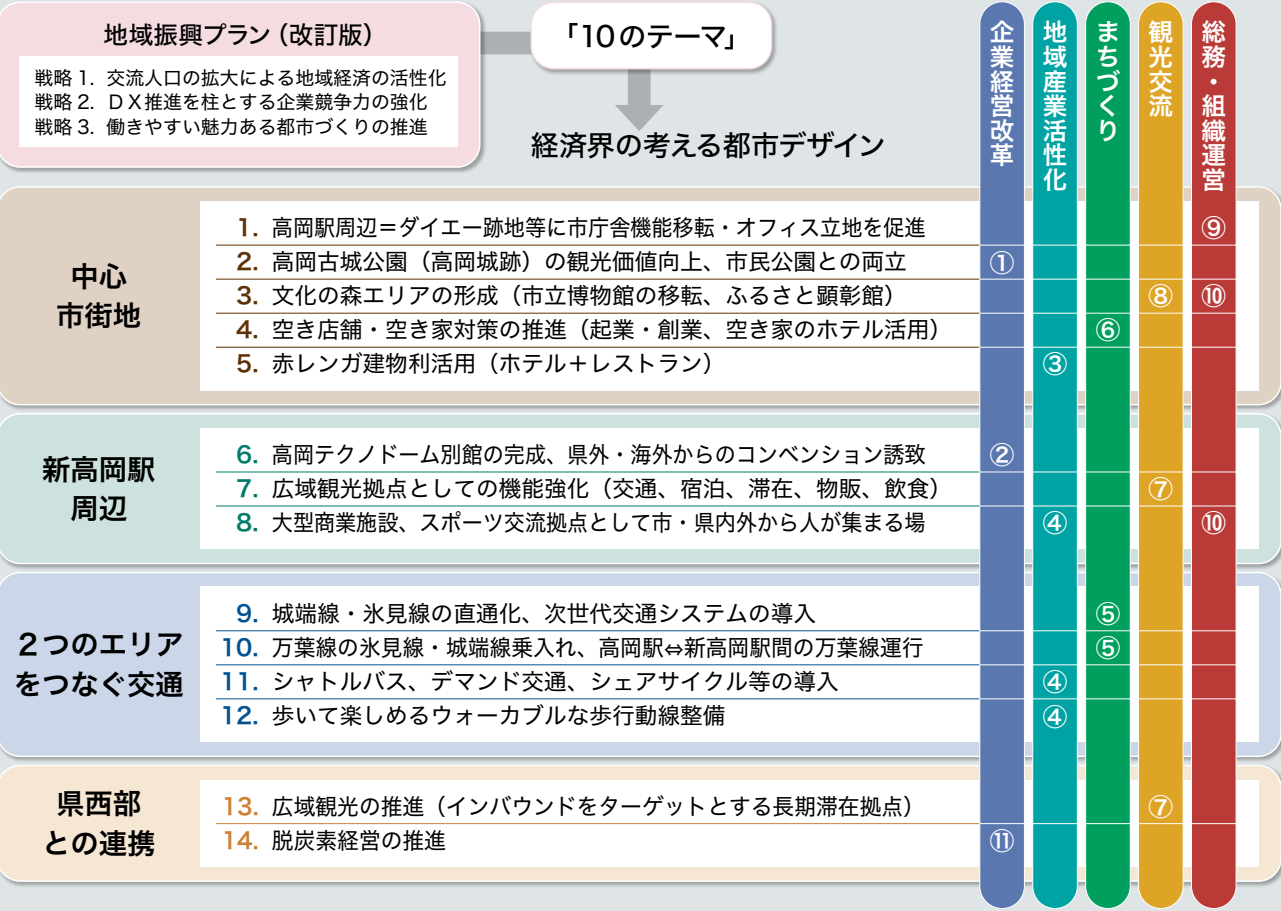
高岡のまちは、高岡駅を含む「中心市街地」と、北陸新幹線新高岡駅を拠点とする「新高岡駅周辺」の2つのエリアにおいて、複数の重要なプロジェクトが動き始めています。このまちづくりの流れを経済界が共有し、ともに考え、協働関係で推進していくことが重要であります。

上記をふまえ、今後のまちづくりの推進に向け「経済界の考える都市デザイン」を策定しています。

2. 「10のテーマ」から導かれる方策

「10のテーマ」より、下記の14の方策を提案します。

各常任委員会の関連する方策

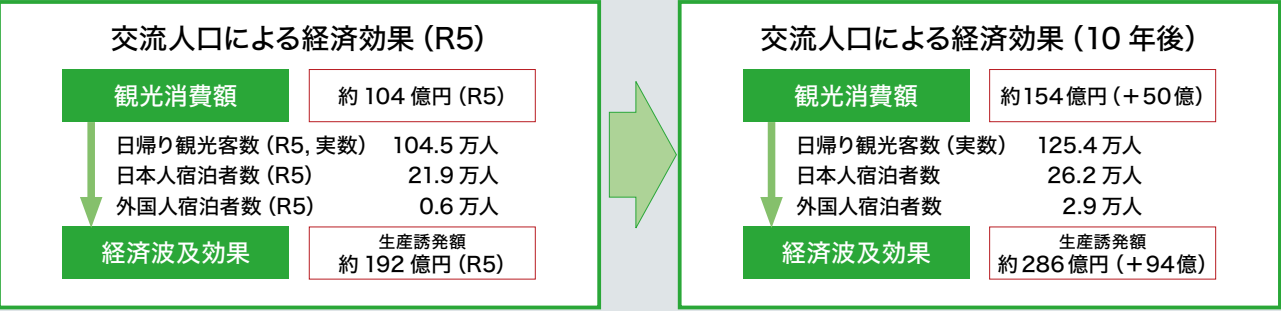


3. 交流人口の拡大による効果（試算）

地域振興プラン（改訂版）において、戦略1に「交流人口の拡大による地域経済の活性化」を掲げており、経済界の考える都市デザインにおいても中心市街地、新高岡駅周辺、2つのエリアをつなぐ交通、県西部との連携において、交流人口拡大に関する検討を多く行いました。

高岡の産業構造は、製造業と卸売・小売業が強い特性を持ち、交流人口の拡大による消費額の拡大は産業全体への効果が期待されます。またコンベンションの誘致拡大は戦略2「DX推進を柱とする企業競争力の強化」に関連し製造業の販路拡大、DX技術の交流やイノベーション力の向上にも資すると考えられます。

令和5年の観光消費額約104億円、生産誘発額192億円に対し、約10年間で日帰り観光客数、日本人宿泊者数を2割拡大、総宿泊者数に占める外国人宿泊者の割合を2.8%から10.0%に引き上げ、一人当たりの消費額を2割増とし、観光消費額約154億円、生産誘発額286億円を目指します。



中心市街地

歴史文化 エリア

- 中心市街地は城下町時代から続く高岡の歴史と文化を継承する、まちづくりにおいて重要なエリアです。高岡駅周辺に市庁舎の機能移転を進める等、オフィス空間を拡大することは、公的サービスへの市民のアクセス環境を高めるとともに、中心部で勤務する人が増え、多くの人が訪れる基盤となります。
- 交流人口を拡大させ、交通アクセス等当エリアへ誘導する仕組みを整え、日本遺産でもある高岡の歴史文化を体験してもらう中で、観光消費の拡大を図り商業・サービス産業の活性化につなげるとともに、産業全体への波及効果を創出します。
- 生活者にとって利便性の高い中心市街地、観光客が訪れることにより経済が潤う中心市街地を形成することにより、居住密度を高め福祉、商業、交通等のサービスが持続できるまちづくりを進めます。

1. 高岡駅周辺＝ダイエー跡地等に市庁舎機能移転・オフィス立地を促進 ⑨

構 想

- 高岡駅南口のダイエー跡地（市土地開発公社が購入）に、PPP・PFI等の民間資金・活力を用い市庁舎の本体機能移転やオフィス空間の拡大を促進します。
- 市民窓口等のサービス部門はウイング・ウイング高岡等への移転を進め、高岡の玄関口としての賑わい向上を図ります。
- 読売会館周辺の高岡駅前東地区において、オフィス機能を重視した再開発を推進します。一例として、複数の大学院等高等教育機関の誘致により、学術文化都市の拠点性を高めることも考えられます。

構想の意義

- 市庁舎の機能移転により800人程の高岡市職員の本庁勤務者が毎日中心部を訪れます。またオフィス空間を拡大し中心部で働く人を増やすことにより、昼食・夕食を含む飲食、公共交通利用、商店利用等、中心市街地の活性化に資する効果は非常に大きいと考えられます。
- 窓口機能をウイング・ウイング高岡等に移転することにより、市民が中心部を訪れる機会が増大します。来訪者の滞在が増えることによる経済効果とともに、高岡駅南北の交流を促し、中心部の住みやすさ向上により居住密度を高める効果も期待されます。

今後の取組

- ダイエー跡地の活用に関し、調査・研究を進め経済界からの提案や協力方法を具体化します。
- 長岡市に2012年に誕生した「アオーレ長岡」は市役所と市民活動の場を一体的にまちなかに整備することにより、多くの市民が訪れ市民協働が進んでいます。高岡においても、市庁舎機能移転を契機に市民活動や民間企業との連携がさらに進み、市民が中心部に滞在する魅力的な中心市街地が形成されるよう、様々な角度から検討します。



アオーレ長岡 総合窓口
日本一のサービスを目指す窓口

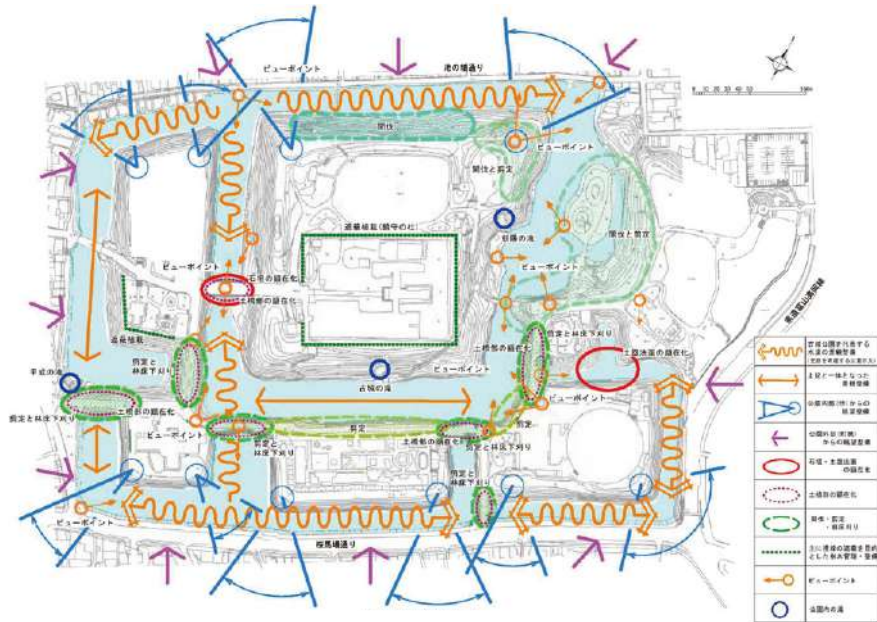


アオーレ長岡 ナカドマ（屋根付き広場）
イベント時の賑わい

2. 高岡古城公園（高岡城跡）の観光価値向上、市民公園との両立 ①

構 想

- 公園指定後に植樹された樹木や自生した雑木が生い茂り、緑豊かな自然的な公園となっている一方、樹木の密生により、植生の生育不良、眺望や景観の阻害、さらに史跡の本質的価値である堀や郭、土塁、石垣の顕在化が課題となっています。
- そのため、「高岡古城公園樹木管理行動計画」の早期実現、富山県唯一の日本100名城である高岡城跡（国史跡）の再整備による観光価値の向上を推進します。



高岡古城公園 樹木管理の方針イメージ

史跡の顕在化
（本丸石垣南側周辺イメージ）



現況



取り組み後
（水際の樹木整理、雑木の伐採など）

構想の意義

- 市民公園として、四季折々の美しい自然を、市民が歩いて楽しめる公園でありつづけることにより、まちなか居住者をはじめとする市民生活の質の向上につながります。
- 史跡の価値と魅力を高め、観光客が訪れたいくなる高岡城跡を整備することにより、中心市街地を訪れる交流人口が増加します。

今後の取組

- 「高岡古城公園樹木管理行動計画（10年）」の早期完了に向け、協力を行います。
- 全国の観光名所となっている城跡は、天守閣が現存または復元されているケースが多いですが、金沢城のように江戸時代の建築物を復元し、城跡としての景観を高めるとともに、建物自体を含めた展示施設とすることで、観光客の満足度を高めている例もあり、継続的に研究、協議を行います。



金沢城 復元された「菱櫓」「五十間長屋」
「橋爪門続櫓」の建物



金沢城 再現された玉泉院丸庭園

4. 空き店舗・空き家対策の推進（起業・創業、空き家のホテル活用） ⑥

構 想

- 高岡において令和6年度に範囲を拡大し空き店舗・空き家調査を実施しています。中心市街地の空き店舗・空き家の状況をふまえ、リノベーションによる宿泊施設等の活用を推進します。
- 移住者と空き店舗・空き家のマッチングを促進し、首都圏・県外をターゲットに、空き家対策と移住支援をセットにして取り組みます。



金屋町の町家をリノベーション
民家ホテル 金ノ三寸



長屋のリノベーションによる商業施設
坂下町のちいさな商店街 サカサカ

構想の意義

- 中心市街地の空き店舗・空き家の解消は、居住密度低下の抑制、都市の魅力向上につながり、生活の質の向上、経済循環の再生につながることが期待されます。
- 移住と連携して進めることにより、高岡市の人口減少抑制にも効果が生まれます。

今後の取組

- 空き家を活用した宿泊施設を展開する民間事業者等と連携し、インバウンドを含む観光需要に対応できる宿泊施設の増加を図ります。
- 移住者とのマッチングに関しては、若手民間事業者等と連携し、首都圏を中心に県外に対するPR活動を展開します。
- 空き家の活用をきっかけに、中心市街地の建物がより長く使われる優良なストックとなるよう、空き家を所有し賃貸する際に、水回りや玄関のリフォームに活用できる補助金の創設を働きかけます。
- 脱炭素先行地域の認定（R5.11）において目指す地域像が「中心市街地の脱炭素×資源循環で実現する環境と経済の両立」であることをふまえ、空き家の活用・リフォーム時に再生可能エネルギーの活用を促進する等、脱炭素においても先進的な取り組みを進めます。



空き店舗・空き家の利活用に取り組む
「アキヤテラス」の活動の様子

5. 赤レンガ建物利活用（ホテル+レストラン） ③

構 想

- 大正期に建築された赤レンガの建物は、県内に唯一残る本格的洋風建築。辰野式と称される近代銀行建築の外観意匠を取り入れた文化財的価値のある建物であり、その利活用は中心市街地の活性化において大きな役割が期待されます。
- 経済界としても「県西部産業偉人の展示」、「ホテル+レストラン」を提案し、今回、「ホテル+レストラン」は2028年の開業に向け進められています。
- ※「県西部産業偉人の展示」は高岡商工ビル2階にて行っています。
- ※ホテル+レストランの事業者は、ミサワホーム(株) + (株)温故知新(運営会社)

構想の意義

- 歴史資源の多い高岡の中心部において、歴史や生活文化を活かした交流人口の拡大に向け、赤レンガ建物が現代に生まれ変わることは、話題性や魅力の向上の面で大きな効果を生むと考えられます。
- 質の高い宿泊空間の提案は、経済効果の高い宿泊客の増加につながるとともに、近年、旅行先の選定において大きな力を持つ“食”の魅力向上につながります。



事業者選定プロポーザルにおける提案 建物外観、レストランのイメージ
©Takaoka Retreat（仮称）コンソーシアム

今後の取組

- 運営会社「(株)温故知新」は、個性的なホテル、レストランを全国で展開しており、「地域に根ざした宿は、その土地の魅力を発見するショーケース」というコンセプトを持っています。レストランの食材はもちろん、内装における伝統工芸の使用をはじめ様々な高岡の魅力を発信する拠点となるよう、運営会社と対話を重ねます。



(株)温故知新が運営するレストランは、地元の食材と地元のお酒にこだわる。高岡ならではの新しい食の体験を提供してもらうことで、高岡全体の食文化の発展も期待される。

6. 高岡テクノドーム別館の完成、県外・海外からのコンベンション誘致 ②

構 想

- 経済界の要望に基づき、高岡テクノドーム別館は当初計画の床面積（1,200 席確保）で進められており、コンベンション機能を優先する方向で、令和 10 年度中の完成を目指しています。
- コンベンションの誘致に関しても検討を進めており、年間を通じコンベンションが開催され、国内外から多くの参加者が訪れるための取り組みが求められます。

構想の意義

- 多くのコンベンション参加者は宿泊を伴う滞在となるため、エクスカッションとしての観光につながります。交流人口の拡大は産業全体への波及効果を生み出します。
- 地元で学会や展示会・見本市が開催されることにより、DX分野をはじめとするビジネス・イノベーションの機会が増え、企業競争力の強化につながります。

今後の取組

- 具体的な施設内容の検討段階に入るため、経済界として使いやすく、多くのコンベンションを誘致できる施設を目指した協議を進めていく必要があります。
- コンベンションビューローとして、コンベンション誘致、コンベンション運営補助、宿泊手配、エクスカッション（観光）企画等の機能強化を進め、参加者、運営サイドともに満足度の高いコンベンション拠点の形成を目指します。



国際会議「ICMBE 2024」島根県くにびきメッセ
松江コンベンションビューローの活動により、地方都市にありながらも 2024 年度に国際会議を 22 件誘致する等、成果をあげている。

7. 広域観光拠点としての機能強化（交通、宿泊、滞在、物販、飲食） ⑦

構 想

- 高岡テクノドーム別館の整備を契機に、広域観光拠点としての機能強化を図ります。
- 強化すべきインフラとして、コンベンション機能（テクノドーム別館）、交通機能（城端線・氷見線の直通化、万葉線との一体化）、宿泊機能（リゾートホテル、シティホテル等）、商業機能（特産品・お土産の販売）、飲食機能（地元の食材、料理）が考えられます。

構想の意義

- コンベンション機能の強化に合わせ、宿泊滞在拠点としての機能強化を進めることにより、飛越能の玄関口としてロングステイを含む滞在の拠点となり、高岡全体の交流人口の拡大に資すると考えられます。

今後の取組

- 関連事業（高岡テクノドーム別館、城端線・氷見線の直通化、万葉線との一体化等）を推進するとともに、リゾートホテル、シティホテルの誘致と空き家活用による宿泊施設の設置、観光客向けの商業店舗・飲食店の増強は今後の課題であり、官民協力により積極的な展開を図ります。



宇都宮駅東口におけるコンベンションを核とする広域観光拠点の整備
公共施設として、コンベンション施設（ライトキューブ宇都宮）、交通機能（JR 宇都宮駅との一体化、LRT 停留場）の整備、交流広場整備を行い、民間施設として、商業施設、ホテル（シティホテル）、商業施設が整備されている。

8. 大型商業施設、スポーツ交流拠点として市・県内外から人が集まる場 ④⑩

構 想

- イオンモール高岡を核にナショナルチェーンの物販、飲食の集積を活かし、車で訪れやすい商業ゾーンとして集客力を高めます。
- 高岡スポーツコアの機能強化（新総合体育館の整備等）により、県民がスポーツで集う拠点に加え、全国的な大会や合宿誘致等も展開します。

構想の意義

- 新高岡駅周辺は、市民・県民が日常的に訪れることにより、賑わいや経済効果が生まれており、交流拠点としての機能強化にもつながっています。
- スポーツ面では、全国的な大会や合宿を誘致することにより、交流人口・関係人口の拡大を図ることができます。

今後の取組

- 高岡スポーツコアに全国的な大会や合宿を誘致することは新高岡駅周辺の広域交流機能を活かす取り組みであり、ホテルの誘致や商業の活性化につながることから、大会・合宿誘致の研究及び施設のあり方の検討を継続的に実施します。



2023 年オープン SAGA アリーナ
メインアリーナはレイアウトの変更が可能でコンサートやコンベンションにも利用できる。(画像提供：SAGA サンシャインフォレスト)

2つのエリアを つなぐ交通

9. 城端線・氷見線の直通化、次世代交通システムの導入 ⑤

構 想

- 城端線・氷見線のあいの風とやま鉄道への移管とともに、直通化をはじめとする活性化事業を実施します（～ R16）。
 - 1) 新型鉄道車両の導入
 - 2) 運行本数の増加・パターンダイヤの導入（関連ハード整備）
 - 3) IC カードの対応
 - 4) 城端線・氷見線の直通化
 - 5) 設備の改良、案内システムの整備



新型車両のデザイン
© 城端線・氷見線再構築会議

構想の意義

- あいの風とやま鉄道が本線、城端線、氷見線を一体的に運営するため、ネットワーク強化につながります。
- 利便性向上策により、地域の暮らしを支える機能、広域交流を促進する機能、まちづくりとの連動が強化されます。

今後の取組

- 事業進捗を確認しながら、各段階で必要な協力や意見交換を行います。
- 沿線の自治体が連携し、ターゲット層に対する割引、パーク＆ライド駐車場整備等、利用促進を進めます。

10. 万葉線の氷見線・城端線乗入れ、高岡駅⇄新高岡駅間の万葉線運行 ⑤

構 想

- 万葉線の氷見線・城端線への乗り入れ、城端線・氷見線との一体化を研究・推進します。
- 瑞龍寺駅（新駅）の設置等を推進します。

構想の意義

- 万葉線が氷見線・城端線に乗り入れることにより、万葉線の車両が氷見線・城端線を運行することが可能になります。
- 高岡駅⇄新高岡駅間に万葉線の車両が乗り入れ、高い運行頻度で運行することも可能になれば、両駅のアクセス問題は一気に解消します。



えちぜん鉄道 鷺塚針原駅
福井鉄道の低床車両が乗り入れるため、高床ホーム（左側）と低床ホーム（右側）が並び

今後の取組

- 具体的な計画案を策定し、関係機関への要望を継続的に実施します。

11. シャトルバス、デマンド交通、シェアサイクル等の導入 ④

構 想

- 高岡駅⇄新高岡駅間は複数のバス路線を束ねることにより、一定の頻度（日中約 20 分間隔）で路線バスが運行しています。情報発信の工夫、スマートフォンでの検索機能の強化等により周知の強化を図ります。
- より多様な目的地や利用形態のニーズに応えるため、中心市街地～新高岡駅周辺のエリアにおいて、アプリ予約が可能なデマンド交通、シェアサイクル等の導入を検討します。

構想の意義

- 観光客、ビジネス客等が、気軽に中心市街地～新高岡駅周辺のエリアを移動することが可能となり、高岡の滞在時間拡大、満足度向上につながります。



ハローサイクリングが展開している電動自転車

今後の取組

- 高岡駅⇄新高岡駅間の交通に関し、効果的に情報発信し周知を高めます。
- デマンド交通に関しては、既存公共交通とのバランスを考慮しつつ、特定のエリアでの導入が可能か検討を進めます。
- シェアサイクルは、令和 7 年 4 月より「ハローサイクリング」のプラットホームが導入されており、今後はステーションの拡大、多様なモビリティの導入が期待されます。
- 国内シェアの高い MaaS アプリと、地域内の交通サービスの連携を進めます。

12. 歩いて楽しめるウォーカブルな歩行動線整備 ④

構 想

- 中心市街地において、高岡駅を起点とする末広通り、歴史的な街並みが残る山町筋、金屋町、高岡古城公園への動線等に対しウォーカブルな歩行動線整備を進め、歩いて楽しめるまちを実現します。
- 中心市街地と新高岡駅周辺を結ぶエリアにおいては、東西軸の「八丁道」に対し、南北軸として「駅南大通り」、新高岡駅から瑞龍寺に向かう「新たな参道」を位置づけ、魅力向上を進めます。
- 歩きやすさを高めるため、歩道空間を再整備し、有効幅員の確保、歩道の波打ちや段差の解消、歩きやすい舗装材の採用等を進めます。また休憩できる空間を配置します。
- 路面誘導サインの設置、工芸展示ができるフットライト整備等により、わかりやすさと楽しさを高めます。
- 国の「ほこみち」制度を使い移動販売車や沿道のお店が道路空間を活用する等、賑わい創出の工夫をしたり、イルミネーションを実施する等、訪れたいくなる、歩きたい空間演出を検討、実施します。



金沢路面誘導サイン
主要観光地を標示



輪島まんなか通り
伝統工芸を展示できるフットライト



姫路大手前通り
R4.8 〜ほこみちを実施。テーブルとイスが並び、移動販売車も出店。イルミネーションによる観光誘客も実施。



構想の意義

- 中心市街地や高岡駅～新高岡駅間を歩いて楽しい空間とすることにより、旅行者の満足度向上を図ります。

今後の取組

- 実現化に向け行政との役割分担を進め、賑わい創出の点では社会実験の実施による課題把握等を進めます。

県西部との連携

- 県西部エリアと連携し、高岡が長期滞在観光の拠点となることにより、県西部から飛越能、金沢、立山への広域観光を推進します。
- 県西部の産業偉人:高峰譲吉、藤井能三(高岡)、浅野総一郎(氷見)、正力松太郎(射水)、大矢四郎兵衛(砺波)、大谷米太郎(小矢部)、稲塚権次郎(南砺)等を、高岡商工ビル2階での展示や富山県西部産業開発協議会 HP にて紹介し、県西部地域の連携促進を図ります。

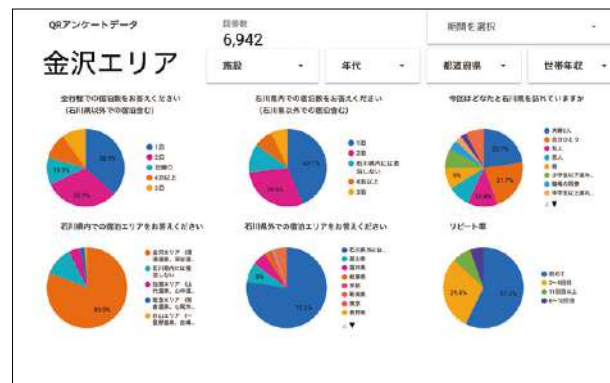
13. 広域観光の推進(インバウンドをターゲットとする長期滞在拠点) ⑦

構 想

- ターゲットを「インバウンド(欧・米・豪・台湾・アセアン・中国富裕層)」に設定します。
- 高岡が長期滞在の拠点として選ばれるよう、官民協力により観光インフラ(宿泊施設、交通、Wi-Fi等)の整備を推進します。
- インバウンドを対象に、観光コンセプトを伝えるPR動画等を作成しメディア向けの発信を行うとともに、観光発信サイトのバージョンアップを定期的に取り組みます。

今後の取組

- DXを活用し、リアルタイムのデータを見ながら、関係者(観光協会、観光事業者、行政機関等)が協議し戦略を実施するデータ活用プラットフォームの開発、会議体の運営等が求められます。将来的には、より効果的な観光振興を目指し、まちづくり会社や観光協会等、関連組織の統合に関し検討を進めます。
- 観光マーケティングの視点から、ターゲットにフォーカスした事業内容の検討、実施が求められます。



石川県観光データ分析プラットフォーム「Milli」

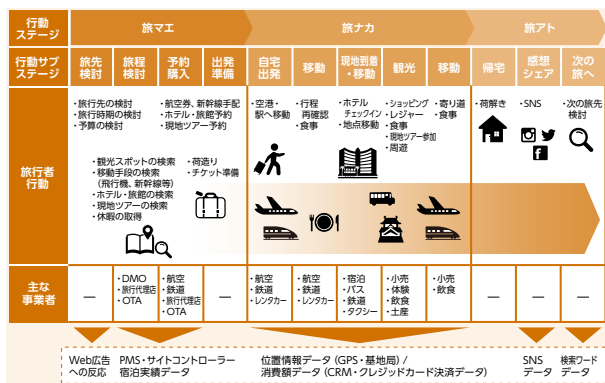
デジタルマーケティング

石川県観光データ分析プラットフォーム「Milli」

観光統計情報は公表まで時間を要するため、石川県に集約されるオープンデータをいち早く、分かりやすく公開する手段として、「Milli」を運用。令和5年度から複数の観光スポットに「QRコード」を設置し、観光客の属性情報を取得する取り組みも始めている。

構想の意義

- 県西部全体の交流人口の拡大に資するとともに、一人当たりの消費額が大きいインバウンド観光客の滞在数を増やすことにより地域経済の活性化を図ります。



観光庁/観光地域づくり法人(DMO)による観光地域マーケティングガイドブック

カスタマージャーニー

旅行者の行動を理解する際には、ターゲットとする旅行者の「旅マエ～旅ナカ～旅アート」の行動を視覚化するカスタマージャーニーを作成し、検証することが有効といわれている。観光地域マーケティングの好循環を生み出すためには、ターゲットとなる観光客像を明確化し、ターゲットに刺さる取組(行動ステージに応じた検証と改善)を検討する必要がある。

14. 脱炭素経営の推進 ⑪

構 想

- 高岡市は、環境省の脱炭素先行地域の認定(R5.11)を受け、脱炭素の取り組みを推進しています。
- 経済界としても積極的に脱炭素化に向けた事業を推進する趣旨のもと、「脱炭素経営がもたらす企業変革」をテーマに脱炭素経営について理解を深めることを推進することにより、各企業が脱炭素の取り組みを積極的に進めることを促進します。

構想の意義

- 市域におけるCO2排出量の削減目標を達成するためには、各企業が地球環境問題への理解を深め、各主体の創意工夫による取り組み、各主体の連携・協働による共創の取り組みを、積極的に進めていくことが不可欠であると考えられます。
- 目標である2050年カーボンニュートラルの実現に近づくことにより、各企業の競争力が高まるとともに、持続可能な経済社会の構築につながります。

今後の取組

- 高岡市が脱炭素先行地域として脱炭素の取り組みを推進していくにあたり、経済界として各企業が事業活動における環境への負荷低減への取り組みを強化するよう働きかけを行います。
- 同時に、富山県西部森林活用事業検討協議会(理事長:高岡商工会議所会頭、事務局:高岡商工会議所)がまとめる問題・課題・対応策が記載されたレポートを基に、森林資源の保全・活用を通して、地域経済循環、カーボンニュートラルを実現する取り組みを後押ししていきます。

地域で目指す循環パッケージ(富山県西部森林活用事業検討協議会)



プラチナ構想ネットワーク資料よりアルファフォーラム作成

■ 14の方策スケジュール

○中心市街地「歴史文化エリア」

14の方策	短期 2025-28	中期 2029-31	長期 2032 ～
高岡駅周辺：市庁舎機能移転、オフィス立地の促進	ダイエー跡地活用等の調査・研究、市提案・協力 市庁舎機能移転方針の決定	PPP／PFI 等による整備	
高岡古城公園の観光価値向上	樹木管理行動計画（10 年）の早期完了	行動計画の継続、復元事業の研究・協議	
文化の森エリアの形成	企画展の充実・動線の魅力向上 顕彰館（仮称）等の検討協議	博物館の移転整備、歩行動線の整備	顕彰館（仮称）の整備、駅名等の変更
空き店舗・空き家対策の推進	宿泊施設等の充実、県外者マッチング PR 活動 まちなか宿泊施設のブランディング	〈事業継続〉まちなか宿泊施設の PR 活動強化	
赤レンガ建物利活用	赤レンガ建物の整備（整備事業者と協議連携）	まちなか拠点化への支援	

○新高岡駅周辺「交流人口拡大エリア」

14の方策	短期 2025-28	中期 2029-31	長期 2032 ～
テクノドーム別館の完成、コンベンションの誘致	ドーム別館の完成 別館完成に合わせたコンベンション誘致活動・運営体制の確立	コンベンションの誘致活動・運営体制の強化	
広域観光拠点の機能強化	ホテル誘致活動 店舗出店支援の充実	ホテル等宿泊施設の設置、新駅周辺の出店推進	
商業施設・スポーツ拠点の充実	誘致活動の推進と研究検討 商業施設との連携事業	新総合体育館の整備検討 スポーツイベント等の誘致活動の推進	

○2つのエリアをつなぐ交通

14の方策	短期 2025-28	中期 2029-31	長期 2032 ～
城端線・氷見線の直通化 次世代交通システムの導入	新型車両導入等の利便性事業 沿線の利用促進策の充実	城端線・氷見線の直通化	
万葉線の氷見線・城端線乗入れ、運行	万葉線の乗入れ、一体化の研究推進 関係機関への継続要望		万葉線の乗入れ・運行
シャトルバス、デマンド交通、シェアサイクルの導入	シャトルバスの情報発信・周知の強化 デマンド交通の研究・導入、シェアサイクルの充実	運行本数の増加等の利便性向上	
ウォーカブルな歩行動線整備	ウォーカブルの調査研究 社会実験の実施 歩道空間等の再整備		

○県西部との連携

14の方策	短期 2025-28	中期 2029-31	長期 2032 ～
広域観光の推進	関係機関の連携協議 PR・マーケティング強化 関係機関の統合検討	PR活動の強化 組織統合	
脱炭素経営の推進	各企業の脱炭素取り組みの促進 森林資源の保全・活用への組織体制確立	森林保全・活用の取り組みの促進	

■ 都市デザインセミナーインデックス

- R4. 7. 22 議員総会 講演会
「交通政策と都市政策の融合」
講師：前富山市長 森 雅志 氏
- R4.11. 29 運輸交通・建設部会 講演会
「地域の社会課題である公共交通利用と企業経営の両立に向けて」
講師：NiX JAPAN (株) 代表取締役社長 市森 友明 氏
- R4.12. 9 会員大会 記念講演会
「高岡城から日本の城を考える」
講師：城郭考古学者 千田 嘉博 氏
- R5. 2. 22 まちづくり・観光交流常任委員会 講演会
「SEKAI HOTEL の取組」
講師：クジラ (株) 代表取締役 矢野浩一 氏
SEKAI HOTEL Takaoka (株) 代表取締役 大野 海 氏
- R5. 7. 21 議員総会 講演会
「文化資源の宝庫・高岡市
本質的な観光経済圏をつくるには」
講師：(株) an 代表取締役 永谷 亜矢子 氏 (立教大学客員教授)
- R6. 7. 22 議員総会 講演会
「鉄軌道を活かした地域づくり
～交流人口・関係人口の拡大～」
講師：(株) ミライノ交通観光ラボ 代表取締役 稲田 祐治 氏
- R7. 4. 15 まちづくり常任委員会 講演会
「富山県内の空き家活用の事例」
講師：空き家活用コンサルタント 吉田 大地 氏
- R7. 3. 24 議員総会 講演会
「富山県西部の未来」
講師：(株) 日本総合研究所 主席研究員 藻谷 浩介 氏
- R7. 7. 8 富山県西部産業開発協議会総会 講演会
「インバウンドビジネスに参入しませんか!」
講師：富山県 観光推進局長 宮崎 一郎 氏



R4.7.22 議員総会にて森氏



R4.11.29 運輸交通・建設部会にて市森氏



R4.12.9 会員大会にて千田氏



R5.7.21 議員総会にて永谷氏



R7.7.8 富山県西部産業開発協議会総会にて宮崎氏

■ 2018 年「地域振興プラン」

I	交流人口拡大	1 藤子・F・不二雄先生のふるさとづくり 2 MICE 招聘機能 3 産業体験観光・歴史文化遺産の活用 4 山町筋・金屋町での創造エリア形成
II	新技術導入、創業・事業承継 (改訂版では DX 推進を強調)	1 工芸都市高岡の産地継承 2 IT を活用した企業イノベーション創発 3 呉西圏域連携による次世代産業創出 4 小規模事業者の伴走型支援事業者の経営強化 5 創業・事業承継支援
III	働き方改革、まちづくり (改訂版では働きやすい都市づくり)	1 働き方改革推進 2 健康経営・宣言の推進 3 移住・UIJ ターンの強化 4 関係機関連携によるクリエイティブ産業の活性化 5 市街地再整備及びリノベーションまちづくり推進

○地域振興プラン策定特別委員会 委員名簿

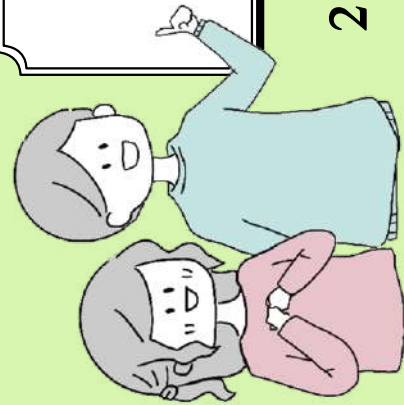
職 名	氏 名	担当部署
委員長	能作 克治	
副委員長	宇波 真一郎	観光・サービス業部会長
	花田 修一	地域交通・港湾対策常任委員長
委 員	加茂 輝隆	総務財政常任委員長
	松村 浩史	地域産業活性化常任委員長
	菅野 克志	商業まちづくり常任委員長
	吉田 雅弘	観光振興常任委員長
	松嶋 浩二	広域連携推進常任委員長
	梶谷 英治	金融情報部会長
	北村 彰浩	工業部会長
	土田 一清	流通部会長
	竹中 伸行	伝統産業部会長
	稲田 祐治	運輸交通部会長
	西村 博邦	建設部会長
	開 章夫	若手議員
	福田 剛平	若手議員
	富田 昇太郎	若手議員
	小杉 美和子	女性議員
	荒井 里江	女性議員
	山口 泰祐	高岡商工会議所青年部
学識経験者	長尾 治明	
コンサルタント	米田 亮	
担当副会頭	永田 義邦	

■ 2025 年「経済界の考える都市デザイン」

I	中心市街地（高岡駅周辺） 「歴史文化エリア」	1 高岡駅周辺へのオフィス誘致 2 日本 100 名城、高岡城跡の観光価値向上 3 博物館移転や藤子先生ふるさと館による「文化の森エリア」形成 4 空き店舗・空き家の宿泊・飲食店での活用 5 赤レンガ（富山銀行旧本店）のホテル・レストラン
II	新高岡駅周辺 「交流人口拡大エリア」	6 高岡テクノドーム別館へのコンベンション誘致 7 広域観光拠点としての機能強化（交通、ホテルなど） 8 大型商業施設、スポーツ交流拠点による市・県内外からの交流人口拡大
III	2 つのエリアをつなぐ交通	9 城端線・氷見線の直通化と次世代交通システム 10 万葉線と氷見線・城端線との一体化、高岡駅・新高岡駅のアクセス向上 11 シャトルバス、デマンド交通、シェアサイクル等導入 12 ウォーカブルな歩行動線整備
IV	県西部との連携	13 広域観光の推進 14 脱炭素経営の推進―県西部森林活用事業検討協議会―

○「10のテーマ」常任委員会 各テーマと結論

委員会名	職 名	氏 名	テーマ	結 論
企業経営改革	会頭	塩谷 雄一		
	委員長	津嶋 春秋	① 古城公園の活用、桜の植替え、樹木の伐採 ② 高岡テクノドーム別館の早期完成と誘致活動 ⑪ 脱炭素経営がもたらす企業変革	○整備促進による高岡城跡の価値向上 ○コンベンションセンター・産業展示館として要望（令和10年度完成知事表明） ○県西部森林活用事業検討協議会による課題の抽出と解決の方向まとめ
	副委員長	石橋 正好		
		高木 章裕		
		畑田 和也		
		山岡 弘之		
		山辺 知代		
	副会頭	中村 正治	③ 赤レンガ建物利活用 ④ 中心市街地と新駅を核とする都市の魅力向上の推進	○ホテル・レストラン・産業偉人展示要望（令和10年度にホテル・レストラン完成、温故知新による運営） ○高岡駅周辺と新高岡駅周辺の役割明確化 ○中心市街地活性化策とりまとめ
地域産業活性化	委員長	宮越 一郎		
	副委員長	筏井 秀樹		
		大藏 徹雄		
		折井 宏司		
		花田 将司		
		南 長八朗		
	副会頭	菅野 克志	⑤ 城端線・氷見線次世代交通システム・直通化及び万葉線との一体化の調査・研究 ⑥ 空き店舗・空き家対策とまちづくり	○城端線・氷見線直通化及び万葉線との一体化の調査研究・推進を県市に要望 ○市中心部での空き店舗・空き家調査の支援、活用法の検討
まちづくり	委員長	宇波 真一郎		
	副委員長	中田 優二		
		服部 恵子		
		松村 泰隆		
		山本 政則		
		四津川 元将		
	副会頭	菅野 克志	⑦ 広域観光の推進 ⑧ 藤子・F・不二雄の故郷高岡のまちづくり	○欠けている観光インフラ検討（宿泊施設・発信力、コンセプト、長期滞在の仕組み等） ○藤子・F・不二雄ふるさとギャラリーの市民による藤子先生ふるさと館への発展
観光交流	委員長	梶川 貴子		
	副委員長	今川 美千子		
		小竹 秀子		
		竹田 光宏		
		西村 寛		
		林 克吉		
	副会頭	能作 克治	⑨ 市庁舎移転問題 ⑩ 博物館、体育館移転問題	○ダイエー跡地とウイング・ウイング等活用による高岡駅南北への市庁舎機能移転 ○美術館横への博物館移転による文化の森エリア形成 ○スポーツコアでの体育館早期建設によるスポーツ交流エリア形成
総務・組織運営	委員長	松嶋 浩二		
	副委員長	井上 敏夫		
		多田 勢津子		
		田辺 千秋		
		廣嶋 康雄		
		福田 剛平		
	副会頭	二口 真		
	コンサルタント	米田 亮		



高岡市の 近未来図

2つのエリアが活性化し、
相乗効果を生み出す高岡

